

都市再生整備計画 事後評価シート

黒崎副都心地区

平成25年3月

福岡県北九州市


様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	黒崎副都心地区			面積	160ha		
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	8,479百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路：①黒崎駅前線										
		提案事業	地域創造支援事業：②黒崎中央小学校校舎通外構整備事業 まちづくり活動推進事業：③黒崎副都心賑わいづくり推進事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	道路：④黒崎駅前線(岸の浦工区)、⑤城山西線、⑥黒崎36号線(黒崎駅前広場)、⑦黒崎2号線(黒崎1号歩道橋) 地域生活基盤施設：⑧文化・交流拠点地区(広場・緑地等)整備事業 高質空間形成施設：⑨桜川景観整備、⑩黒崎駅ペDESTリアンデッキ 高次都市施設：⑪文化・交流拠点地区(ホール)整備事業、⑫黒崎北口自由通路整備			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
提案事業		地域創造支援事業：⑬子どもの館リニューアル事業、⑭子どもの館リニューアルオープン記念事業、⑮文化・交流拠点地区(図書館)整備事業、⑯まちづくり総合支援事業、⑰文化・交流拠点地区(太陽光発電施設)整備事業、⑱文化・交流拠点地区(太陽光発電ルーフ付通路)整備事業、⑲黒崎地区中心市街地賑わい再生事業、⑳黒崎商店街回遊性向上事業 まちづくり活動推進事業：㉑新たな魅力づくり推進事業			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
変更	—		—										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	駅乗降客数	人/日	32,320	H18年度	28,109	H24年度	モニタリング	評価値	○	あり	シンボルロード・黒崎駅前線と駅前の顔・ペDESTリアンデッキの整備等により、安全性や駅へのアクセシビリティ等が向上した。	平成25年6月
	指標2	中心市街地内の歩行者通行量	人/日	18,344	H19年度	13,972	H24年度	—	16,216	○	あり	黒崎駅前線をはじめとする安全で快適な歩行者空間及び桜川やペDESTリアンデッキ等の交流空間の整備により求心力が向上した。今後、文化・交流拠点地区等の開業効果が期待される。	平成25年10月
	指標3	地区内人口	人	10,954	H19年度	11,460	H24年度	—	13,510	○	あり	低未利用地等における宅地開発や共同住宅等の新設及び交通体系や交流空間等の整備等により住環境が向上した。	平成25年4月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他の数値指標2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動推進事業等の人材育成の取組により、新たな担い手によるまちづくりが萌芽した。 地区内人口の増加などプラス要因の成果により、当地区の高いポテンシャルを再認識することができた。 イベント運営支援等により、地元の自発的・自主的な取組が活発化した。 												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた				—						
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				—						
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—						
住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の道路整備(みち再生事業)に伴う市民ワークショップ 中心市街地活性化に伴う協議会の設立 地元まちづくり団体等との協働による社会実験 	都市再生整備計画に記載し、実施できた				—							
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●							
持続的なまちづくり体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 地元の自発的なまちづくりを進めるため、まちづくりをマネジメントする専門家を配置するほか、人材育成等を行い、まちづくりのサポート体制を強化した。 	都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●							
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●							
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後もまちづくりの担い手育成、サポート体制の強化のため支援していく。					


様式2-2 地区の概要

黒崎副都心地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 北九州西部都市圏の中核として、複合的な都市機能の集積や快適な生活空間の形成を図ることにより、副都心部の賑わいづくりを推進する。 目標1 北九州西部都市圏の交流拠点として、広域集客の核となる賑わいのある副都心をつくる。 目標2 人の交流が活発に行われるよう、魅力ある快適な都市空間の形成を図る。 目標3 慢性的な地区内の渋滞を解消することによって、アクセスしやすい交通結節機能や交通ネットワークの形成を図る。 目標4 高齢者にやさしいまちづくり、子育てしやすいまちづくりを推進することにより、街なか居住を促進する。	駅乗降客数 単位: 人/日	32,320	H18年度 28,109	H24年度 30,134
	中心商店街内の歩行者通行量 単位: 人/日	18,344	H19年度 13,972	H24年度 16,216
	地区内人口 単位: 人	10,954	H19年度 11,460	H24年度 13,510
	— 単位: —	—	—	—



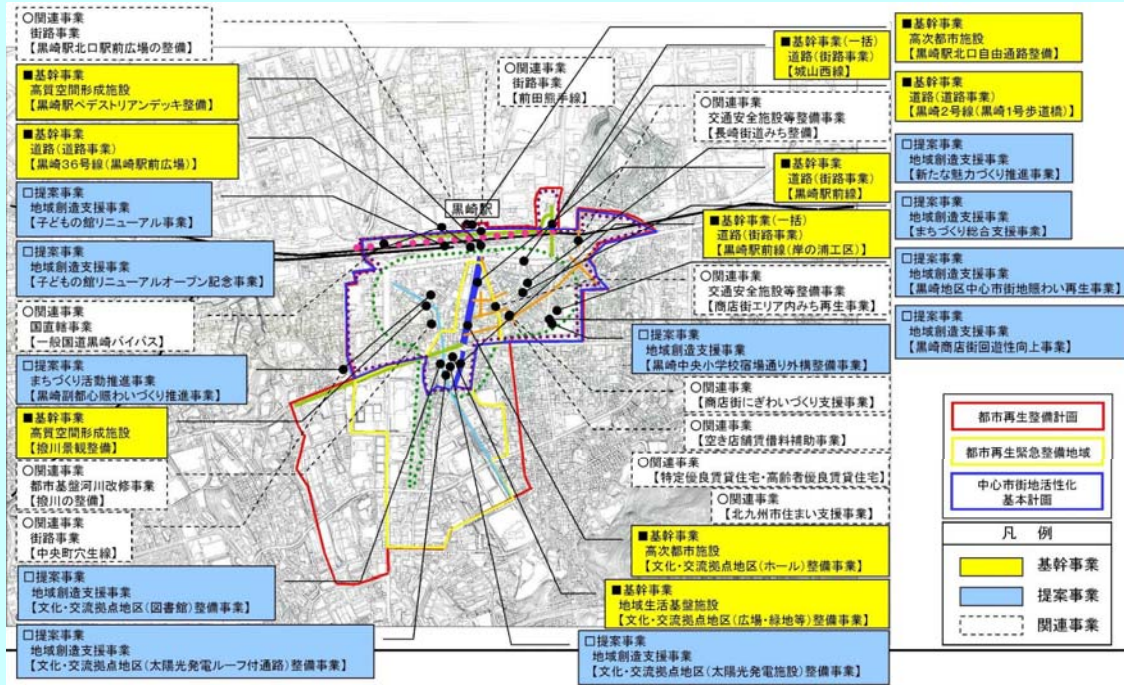
黒崎駅前線




黒崎駅ペDESTリアン・デッキ




接川景観






黒崎駅北口自由通路整備



文化・交流拠点地区(図書館)整備事業



文化・交流拠点地区(ホール)整備事業

まちの課題の変化

1) 地区内の交通ネットワーク強化により地区内へのアクセシビリティをさらに向上、2) 歩行者空間のバリアフリー化及び安全性、景観性、快適性をさらに向上、3) 新たな魅力を創出する付加価値の高いまちづくりを実現、4) 各種まちづくり活動支援を引き続き実施、5) 歴史的風情を含めた景観整備及びまち美化により地区の魅力がさらに向上、6) 回遊性の基軸を補完する動線の整備により回遊性をさらに向上、7) 文化・交流拠点地区と駅周辺施設等の「にぎわいの核」の連携強化により地区全体を活性化、8) 筑豊電鉄や路線バスを含めた結節性及び駅へのアクセシビリティ向上により交通結節機能をさらに強化、9) 子育て世代を支援する施設の充実及び多世代交流を促進する交流空間の整備により地区内の交流人口をさらに増大、10) 公園や河川等のアメニティ空間の充実により街なか居住を促進

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

■ 安全・安心・快適で美しい市街地の形成
 1) 歩行者空間の安全性及び快適性の向上、2) 案内板、花壇、照明灯等の設置、3) 歴史的風情を含めた景観整備、4) 地区計画、建築協定、まちづくり協定等の促進、5) まち美化活動の支援 など
 ■ にぎわいの核を基点とした交流促進・活性化
 1) 交通ネットワークの強化、2) 文化・交流拠点地区と駅周辺施設等の連携強化、3) 筑豊電鉄や路線バスを含めた公共交通の結節性強化、4) 多世代交流を促進する交流空間の整備 など
 ■ 街なか居住の促進
 1) 子育て世代を支援する施設の強化、2) 公園や河川等のアメニティ空間の充実、3) 住環境の維持・管理に関する活動の支援 など
 ■ 持続的なまちづくり体制の構築
 1) 住民参加の促進、2) 各種まちづくり活動の支援 など